

第2回「齋藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会 会議録

日 時	令和4年3月29日(火) 18:30~20:30
開 催 場 所	六角橋地域ケアプラザ 2階 多目的ホール
出 席 者	牧田部会長、岡田副部会長、仲戸川委員、山下委員、柳澤委員、山田委員、島田委員、松井委員、尾崎委員、佐々木委員、石井委員、前島委員、澁谷委員、野本委員、黒木委員、矢島委員
欠 席 者	武委員、渡邊委員、小泉委員、間邊委員、鈴木委員
開 催 形 態	公開(傍聴者5名)
議 題	建替えに伴う学校規模適正化等の検討について
決 定 事 項	第3回部会では、第2回部会の資料や委員の意見等を踏まえ、各団体で集約した意見を御報告いただいた上で、学校統合の方向性について議論することになりました。
議 事	<p>(事務局)</p> <p>本日の部会は、委員全21名中16名の方に御出席いただいておりますので、「齋藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会運営要領の第5条第2項に基づき、部会委員の半数以上の出席があることから、部会を開催することといたします。本日の部会に関しましては、午後8時半をめどに進行させていただきたいと考えております。御協力のほどよろしくお願いいたします。また、当部会は前回御確認させていただきました通り、公開で開催させていただいております。</p> <p>(部会長)</p> <p>それでは、第2回部会をはじめます。前回の検討内容の確認を事務局からお願いします。</p> <p>(事務局)</p> <p>「齋藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会ニュース第1号をご覧ください。こちらのニュースは、昨年12月23日から齋藤分小学校及び二谷小学校の全児童と、関係地域の全戸に配布しております。第1回検討部会での決定事項ですが、第2回部会では、第1回部会の資料や委員の意見等を踏まえ、各団体で集約した意見を御報告いただいた上で、学校統合の方向性について議論することになりました。前回部会の検討内容の確認は以上です。</p> <p>(部会長)</p> <p>次に、検討部会に寄せられた質問・意見について、事務局から報告をお願いします。</p> <p>(事務局)</p> <p>(第1回検討部会の後に事務局に寄せられた御意見・御質問について報告)</p> <p>(部会長)</p> <p>検討部会に寄せられた御質問・御意見等について、事務局から報告がありました。こ</p>

の内容を踏まえながら、検討していきたいと思えます。

それでは、議題に入ります。「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会の検討について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(建替えに伴う学校規模適正化等の検討について説明)

(部会長)

ただいま、事務局から説明がありました。今の説明への質問も含めて、各団体で話し合っていたいただいた御意見を順番に伺っていききたいと思います。また、新たに検討に必要な資料等がある方は、あわせて御意見をいただければと思います。

(委員)

前回、皆さまから出された意見に基づき、平川町公園の一部の利用について御提案がありましたので、町内会で相談させていただきました。公園利用の将来性という別の問題もございますので、今回の学校の建替えということに絞りまして、検討しております。二谷小学校の長い歴史も含めてより良い環境にするため、一つ一つ検討しているところです。

(委員)

六角橋自治連合会は地域的な事情があり、六角橋三丁目・四丁目に当たる六角橋南町内会のみが今回の検討に関わっています。地域にお住いの皆さまは、今回の検討に高い関心を持っており、アンケート調査などを行っています。六角橋南町内会と中丸町内会、斎藤分町北部自治会、斎藤分南部町内会の4つの町内会で出た意見を、基本的には統一の見解として進めております。アンケート調査に基づき、跡地と統合については、現状賛成できないという意見をまとめております。ここに来るまで、小学生の通うルートと距離、また時間等について、実際に歩いた上で距離を出しております。様々な調査を行い、二谷小学校まで片道で2キロを超えることは無いですが、距離ではなく、高低差が大きいという点が問題だと思います。坂の上りは時間も掛かり、疲労もでてきます。その点は問題ではないかと考えております。

(委員)

神西地区としては、地域の住民は二谷小学校の卒業生がほとんどなので、なかなか斎藤分小学校の状況がわからないことも多いですが、何点か質問させていただきたいと思えます。現在、斎藤分小学校は小規模校ですが、いつから小規模校なのでしょう。

(事務局)

平成14年から小規模校の状態が続いております。

(委員)

斎藤分小学校は小規模校のため、建替えをしないとの説明だったと思いますが、今回の部会で二谷小学校との統合をしないという結論が出た場合でも、校舎を建替えるという案は絶対にないのでしょうか。

(事務局)

基本的に、小規模校は建替えの対象としない旨を基本方針で定めております。

(委員)

出来る限り現在の校舎を使用し、どうしても使えなくなった場合はそれまでであり、その後建替えを実施することはないということでしょうか。

(事務局)

そのような方針で進めています。

(委員)

斎藤分小学校は、少人数で適正規模ではないという意見もありますが、私の息子が二谷小学校に通っていた頃は1学年 41 人であり、2クラスにはなりましたが、人数的には現在の斎藤分小学校の子ども達と大きく変わらないと思います。1クラスと2クラスでは大きく違うのでしょうか。少人数の学校にそこまでデメリットがあるのかとも思います。先生方にきちんとやっていただければ、大きな影響はないと思います。

(委員)

いくつか質問させていただきたいと思います。最古の棟が築 65 年ということですが、校舎の一番端の体育館の前の校舎ではないかと思っています。そこは普段どのように使用しているのでしょうか。また、隣の校舎とはつながっているのでしょうか。

(事務局)

最古の棟ですが、体育館の前の2階建ての校舎が一番古く、現在、多目的室、会議室、印刷室、トイレがあり、隣の校舎とは廊下でつながっております。

(委員)

第1回部会ニュースの中に、新しい学校の整備水準等に関するページがありますが、キッズクラブの教室の整備水準がすべて適宜とされているのは、キッズの利用者数に応じて教室数が決まると捉えていますが、どういうことでしょうか。

(事務局)

建替校の場合、キッズクラブとして2教室分整備することが多いですが、人数等によってはそれより減らすこともあり得るため、具体的に何教室とは書いておりません。

(委員)

利用者が減った場合、教室数を減らすということでしょうか。

(事務局)

1 教室+αという形になりますが、教室を整備しております。

(委員)

現在の斎藤分小学校は小規模で人数も少ない学校ですが、キッズクラブの利用者はかなりおり、学校から2教室使わせていただいています。それと比べて、現在の二谷小学校はその2倍程度の児童がいるなかで、そのような計画で大丈夫なのでしょうか。現在の適宜という、曖昧な整備水準のなかで統合となった場合、現在の3倍近い児童がキッズクラブを利用することになれば、運営に十分な教室を確保することができるのでしょうか。先日見学した箕輪小学校も確かにきれいな学校でしたが、あまり余裕があるとは思えませんでした。平面で広い空間はありましたが、キッズクラブで使える広い環境は整備できるのでしょうか。

(事務局)

キッズクラブについては、建替校ではおおむね2教室を整備しています。ただ、2教室では足りないこともあるため、キッズクラブと多目的室を近いところに配置し、学校とのやり取りは生じますが、学校運営上問題がなければ多目的室もキッズクラブとして使用するという対応を行っております。

(委員)

多目的室というのは、整備水準の資料の11から14ということでしょうか。

(事務局)

多目的室のうち、水廻り学習等や集会・発表等については特定の目的のため使用するものなので、少人数指導や、学校指定が使われることが多いです

(委員)

現在の斎藤分小学校もキッズクラブの教室を2教室確保しているため、同じ規模で大丈夫かと思っていました。
斎藤分小学校の関係の方が何人かいらっしゃいますが、やはり出てきた内容は、不安に思う方も多いと思うので、性急に話を決めず、様々な議論を尽くさせていただきたいと考えております。

(委員)

先日開催した、斎藤分小学校学校運営協議会では、統合に反対との意見が出ております。その主な理由としては、先進国では少人数で教育をしている実情があり、文部科学省も1クラスの人数を減らそうとしています。現在の基本方針では、斎藤分小学校

は小規模校となりますが、将来、適正規模校になる可能性もあります。また、前回見学させていただいた学校がいいとは全く思いませんでした。学校の規模が大きすぎて、教員の目も届かないだろうし、キッズクラブの問題もあります。あの学校を見学しても、こうしたいとは思いませんでした。校舎を新しくすることは魅力的ですが、児童にとって一番いいことは、児童一人一人に寄り添ってくれる質の高い教員を教育委員会に選んでいただくことだと思います。

また、キッズクラブの問題ですが、斎藤分小学校にキッズクラブを設置する際の説明会で、横浜市こども青少年局より、2教室を確保する旨の説明があったと記憶しています。2教室を確保した上で、人数が多い場合には $+ \alpha$ と考えるのであれば理解できますが、人数が多い場合、1教室 $+ \alpha$ との言い方をされたのは、市と教育委員会の言っていることに整合性がないと思います。

さらに、資料では、教育委員会が策定した基本方針に基づき、校舎の目標耐用年数を過ぎたら建替えは行わず、いざ廃校になって困るのはそちらですと捉えられる書き方をしているように思います。説明会ではそういったことを言わず、文章でこのようなものが出てくると、地域や保護者が脅されているような感覚になります。これが事実であっても、表現の仕方を工夫した方がいいと思います。前回も申し上げましたが、実施したアンケートの御意見は反対の方がはるかに多いですが、それに対して凛とした回答ができる状況にならなければ、簡単に統合に賛成とは言えない状況です。

(委員)

今回の検討のそもそもの発端は、二谷小学校の校舎の老朽化に伴う建替えです。私が通っていたころから古いと言われていた校舎が今も使われており、保護者としても卒業生としても、いつ大規模地震が起きるかわからない状況なので、一刻も早く建替えを行っていただきたい。もし、皆さんが賛成し、統合ということであれば、二谷小学校の名前がなくなることも仕方ないと思います。ですが、そうなるまでに議論を尽くした方がいいと思います。そうでないと禍根を残したままの船出となってしまいます。

(委員)

斎藤分小学校PTAでは委員の方に協力していただき、25世帯36名の子どもたちに実際に自宅から二谷小学校まで歩いていただき、その感想をまとめました。その中には、今は10分で行けるとところが30分になることや、夏場の暑い中、アップダウンのある通学路を通わなければいけないこと、通学路が延びることで事故に遭うかもしれないなどといった不安点についての御意見がありました。その他、神奈川大学と通学時間が重なると、かなりの人数が同じ道を通ることになりますし、歩きたばこなど、そういった面でもかなり心配という意見がありました。

また、資料にある特別調整通学区域の設定についても保護者の観点から言いますと、1つの町内会に3つの学区が発生することになると思います。保護者としても、スクールゾーン対策協議会や子ども会のこと、新たな問題も発生すると思います。とてもではありませんが、3つの小学校に校外委員をつくるのは、町内会長さんにもご負

担になると思いますし、その辺はいかなものかなと思いました。

資料にある学校統合に伴う閉校施設の後利用について質問です。地域防災拠点やコミュニティハウスになった場合、管理する方はきちんと置いていただけますか。近隣の地域住民が管理するとかではなく、きちんとした団体の方で管理していただけるのでしょうか。

(事務局)

資料では、旧若葉台東小学校の事例を出しましたが、ここは特別支援学校が施設を管理しますので、管理者は学校になります。その他の6箇所の後利用として、地域防災拠点に指定されており、それぞれ施設を使用しているのが学校や県立学校、教育委員会の別用途などで、そういったところが基本的には施設を管理し、今と同じような形で地域防災拠点を地域の方々に使っていただいています。地域の方に管理をお願いするというご意見はございません。

(委員)

二谷小までの通学路について、事務局からA地点及びB地点からの距離と時間について説明がありましたが、その中間の地点が一番遠いのかなと思っています。そこから来年度の新1年生と歩きましたが、40分程度かかりました。また、斎藤分の立地では、6割ほどが坂道で、行きと帰りでは登りと下りが逆になりますし、円形の凹みの滑り止めのあるような急坂も少なくはありません。最近、私の周りの子どもで、おでこに擦り傷を作っている子がいまして、転ぶ瞬間を見た子もいます。寄せられた御意見の中にランドセルに触れたものがありましたが、転んだときの弾みでランドセルの重みに耐え切れずに頭からいってしまうことがありました。この坂道の多い通学路を持ち物が多い中で通うとなると、そういった転倒のリスクがあると思っています。それから、特別調整通学区域について、具体的には二谷小と南神大寺小、神橋小の3校から選べるということによろしいでしょうか。

(事務局)

3校選べる地域でも、神橋小だけ、南神大寺小だけ選べる地域にしてもいいです。こうしたらいいという決まりはありません。今回は事務局の案で、こちらの地域、資料の黄色で示している地域で設定するとこれくらいの距離になるというのを参考に示させていただきました。なので、黄色に塗られた地域が必ず特別調整通学区域に設定されるということではなく、もし設定するのであれば、広げたり、狭めたりということも可能です。

(委員)

特別調整通学区域については、様々な形で設定が可能ということで理解いたします。この件については、六角橋南町町内会は六角橋三丁目と四丁目で構成されていて、同じ町内会で学校が3つに分かれるというのは町内会としては受け入れ難いのではないかと思います。だからといって、全員が神橋小というわけにもいきませ

るので、中々、地域住民の意見をまとめるのも難しくなります。
ここで、私の方で保護者からいただいた意見を2件、お預かりしていますので、ご紹介させていただきたいと思います。これについては、今回の検討部会ニュースの方で丁寧にご回答いただきたいと思います。

まず1点目は先程、事務局に寄せられた声と重複しますが、去年の夏の説明会が終わったあとに、その保護者の方が個別に問い合わせたところ、令和11年3月末まで存続しますという回答だったそうです。しかし、前回の検討部会ニュースを見ると、統合校の開校は令和10年度となっており、1年の差があります。寄せられた意見への回答の中で、前回の説明は間違いだったかもしれませんとなっておりましたが、間違いであったのであれば、訂正をしていただいて、今のところの明確なスケジュールをもう一度、丁寧に説明してほしいとのことでしたので、部会ニュースの方でもう一度、明確にさせていただきたいと思います。

2点目は前回の資料にもありましたが、関係校交流についてです。今、ご説明いただきました特別調整通学区の3校が対象になるということによろしいでしょうか。関係校はどこまでの範囲なのか教えていただきたいとのことですので、そちらも部会ニュースの方で回答をお願いしたいと思います。

(事務局)

関係校交流に関しては、もし、仮に統合という話になれば、統合校として交流するということになります。神橋小や南神大寺小とは交流しないわけではありませんが、関係校交流というのは色々なイベントを子どもたちが行いながら、統合前に交流していくというもので、そういうものに関しては神橋小と南神大寺小は行わないと思います。

(委員)

二谷小学校の保護者の意見を伺いました。平たく言うと保護者には、3種類あります。1つ目は今回の建替えの工事に当たる学年の保護者、2つ目が全く関係なく今の校舎のまま卒業していく学年の保護者、3つ目が統合に恐らく関係してくるだろう未就学の下のお子さんがある保護者、その3種類がいるかなと思っています。だいたい、それが三等分くらいになっていて、概ね校舎の建替えについては、8割から9割くらいの方が概ね賛成です。どちらでもないという方については、どちらでもないのであれば建替えた方がいいと思うので、95%くらいの方が建替えを容認していただけているかなと思っています。また、統合については、その3つのカテゴリーの方ではあまり差がなくて、一番その中で、各カテゴリーで多いのはどちらでもないという方です。統合すればするし、しなければこのままいくという御意見が一番多かったです。統合について、大いに賛成、賛成というのが4年生以上だと賛成が多くて、学年が下がるにつれて、だんだんそれが下がっていているという感じです。相対的に見ると、保護者からすると、恐らく統合というのは子どもたちにとっては心配な面があるのだろうと思っています。もちろん反対という意見も、もちろん4分の1か、5分の1くらいはいるので、真ん中のニュートラルな人が一番多くなっています。それ以外で分け

ると、賛成か反対かでいうと、賛成の方が多い。ただ、反対の人も5分の1くらいいます。そういった感じだと思っています。

統合後の学校名の話についてもアンケートを取りました。それについては新しい校名するパターンと、どちらかを残すパターンと、2つの学校名を繋げるパターンというのが、3分の1ずつ均等になっています。恐らく4年生以上の工事にかからない保護者、卒業して二谷小の保護者は終わりますという方については、恐らく二谷小を残したいというところがあって、また未就学の子どもたちがいる御家庭については、そのときになった学校名で、子どもたちが入るわけなので、そういう御意見になるのかなと思っています。以上が二谷小の保護者アンケートについてです。

また、私もいくつかご意見をいただいております、そうしたものを参考にした上で申し上げますと、今回、二谷小学校の老朽化による建替えということで、部会を立ち上げることになったと思いますが、二谷小としては、やはり子どもたちの安全、あと教育環境として、やはり校舎の建物としての安全を高めるという意味ではやはり建替えていただきたいと思っています。それに伴って、建替えに関する基本方針で近隣の小規模校である斎藤分小学校と統合するのであれば、それは斎藤分の地域のことも考えなければなりません、それはこうして全体で集まったときに考えればいいと思っています。斎藤分の方からすれば、斎藤分小を閉めることはいただけないということですが、それでも二谷小は建替えるわけです。そうなったときに、そのサイズ感で新校舎を建てていくとなったときに、先程、それは人質というか、脅しじゃないかという意見がありました、ただ、どうしてもそのように建てる以上、もしかすると統合するかもしれないデザインでは、横浜市としては建てられないのだろうと思います。もし、ここで統合しないと云ったら、今のうちのサイズ感、2クラスまたは3クラスというサイズ感です、もし、統合するのであれば、3クラス、4クラスというサイズ感になると思います。そこでもし、統合しないとした場合、斎藤分が15年後に、現時点の見込みで、あの場所に小学校を建てられないのであれば、そこは小学校としては使えないのだろうと、私は判断しますし、それが普通の考えだと思います。先ほど、長寿命化という話がありましたが、それでは、どこまで外から支えて持たせていくのかということもあると思います。そして、15年後くらいに小学校を、いよいよ前回、私がレッドゾーンと表現したところですけれども、それを迎えたときに、せっかく広く校庭を作ったところを15年前のこの会で、統合しなかったことで、それが15年後に校庭が狭くなってしまうのであれば、二谷小に統合する方向で色々考えてほしいと思います。もちろん、反対する方向でとなれば、色々考え方があると思います。いろんな不安もあるだろうし、先程、御意見のあった説明会でしていない説明が必要であれば、もう一回説明会を開けばいいと思います。私の二谷小学校の立場からすると、15年後、やっぱり統合ということになり、斎藤分小が建替えられないことが今の時点で予想されるのであれば、通学の問題とか、遠いという問題について、しっかり検討した上で、その不安をできるだけ少なくして、全員がバンザイということにならないと思います、ある程度のところで、そういったところを引いてあげて、15年後、広い校庭に建て増しをしないような形にできたらいいというのが私の希望です。

ここで質問です。今の時点で、仮にお金があったとして、今、斎藤分小を建替えます

とすると、あの校舎は建て替えることが可能なのでしょうか。周りの狭さや高さ制限とかを考えた際に、今の時点で、斎藤分小は建て替えが可能でしょうか。

(事務局)

斎藤分小の入り口が事実上、一本しかないので、施工が非常に難しい学校になります。解体資材や建設資材の搬出入も、全てその一本の道を通らないといけないので、施工自体が非常に難しい学校です。恐らく、建替えは事実上、無理ではないかなと思っています。長寿命化という方向であれば、表面を色々と対応することは不可能ではないと思いますが、完全に一から建て替えるというのは極めて難しいと考えています。

(委員)

もちろん、15年後にどんな技術が日本にあるかはわかりませんし、今、無理だということではないと思いますが、考える方向性として、二谷小としてはできるだけ広い校庭で、高くなるのは構わないですが、いい校舎を希望します。

(委員)

保護者から色々ご意見をいただいた中で、私が個人的に気になったのが、建替えに関して、現在コロナ禍で子どもたちが普通に生活することができず、我慢する機会が増えている中で、今後、また建替えに入って、今度は建替えだからこれはできない、仕方ないよねということがないようにしていただきたいという保護者からの意見が私の目には留まったので、そちらの方はしっかりしていただきたいなと思っています。

(委員)

私の方から意見等はございません。

(委員)

私も最も当事者である方々のご意見を尊重したいと思っています。悔いの残らないように、それはデメリットなのか、メリットなのかと、当初書かれていた、どちらにも解釈できることではなくて、年数や面積といった事実に基づいてしっかり判断していただきたいと思います。

(委員)

この場で2点お話しをしたいと思います。
教育委員会も学校と地域の連携との重要性については、これまでも様々な通知等で説いてきたことからわかるように、学校というのは別に先生と児童だけで成り立っているわけではありません。保護者、それから地域住民の方も含めて、学校地域全体の中で、学校というものの存在が位置づけられていると、私は認識しております。教育委員会もこれまで学校の方に色々と、地域人材の活用や、地域の教育材の発掘、生活・総合的な学習の時間、社会科の街探検など色々ありますが、そういったものも、学校

に付随しているものだと思います。よって、単に地理的・物理的な概念によってのみ、区分けをするのではなく、学校とその学校地域とで、これまでに育んできたものをどういう風に継承していくかということをやっぱり同時に考えていく必要があるのではないかと個人的にはすごく感じているところです。

2点目は小規模校の学校運営についてです。私はこの学校に来る前に、栄区の本郷台駅から徒歩30分程度の小学校で5年間校長をさせていただきました。その学校も全校児童が250人の小規模校でした。斎藤分小学校は約200人。人数は大きく変わらず、単級の学年もありました。単級というのは1学年1学級のことで、そうした単級も混ざっていた小さな学校でした。私がこの中で良いとか悪いとかということではなくて、あくまで学校長として小規模校をマネジメントしていかうかということだけですが、小さな学校にはたくさんのメリットがあると私は承知しています。まず、横浜市教育委員会の中でも最大の課題としている「いじめの未然防止」。これは私たち学校長の1年間の仕事の目標を立てる中でも、いじめの未然防止については強く学校長に課せられているものであります。これが小規模校では、やはり細かいところまで目が行きやすいということはあると思います。私は基本的に毎日、正門に児童支援専任と立って、子どもたちを迎え入れています。その中でいつも、この子とこの子は一緒に登校してくるとか、だいたいこの子は8時15分くらいに入るとか、この子はちょっと遅くて、8時25分くらいに登校するとか、兄弟関係だけど、この子はなぜかお兄ちゃんとお姉ちゃんとは分かれてくるとか、一通り全部頭の中にパターンが入っています。例えば、1人、いつも一緒に来るお子さんが来なければ、「あれ、今日は何かちゃんと一緒じゃないの。」という風に聞きます。「今日、休みみたいです、先生。」という声が返ってくる。そうしたら、インターホンで職員室の方に、「今日、この子、休み入っていますか。」と確認できたりします。一通り、私も200人全員の名前を憶えているかと言われれば、微妙ですけども、8割から9割は苗字が言えるのではないかと思います。そういうところは前の学校でも、私は250人全員、名前を覚えましたが、やっぱり児童の名前を覚えて、児童と接する。それから、保護者とも接する。「校長先生、うちの息子の名前を覚えていてくれてるんですか。」「いや、もちろんです。」と。別に嘘ではなくて、そこは胸を張って、教室に行く前は児童の写真を見ながら、顔と名前を一致させて教室に行ったり、この子とこの子似てるなどと思ったら、やっぱり兄弟で、児童表で確認したりとか。私も毎日毎日繰り返して、児童の顔を覚えるようにしてきました。そういったところの中で、そんな小規模校の良さを感じてきた1人なんじゃないかなと思っています。例えば、前任校では入学式や卒業式も1年生の入学式は2年生から6年生の全員が参加する。6年生の卒業式は1年生から5年生全員が参加して、全校児童で祝うというところに一体感が生まれる良さがあります。それが子どもたちの人権教育や横とのつながりが深まっていくこと、異学年交流の発端にもなっていく中で、とても尊いことだなと自分自身としては感じてきましたし、さらにそれを深化させていくために学校長として何ができるのかということをとことん自分なりに考えてきたと思っています。なので、私個人としては、小規模校の良さというのは多分にあると思いますので、メリット・デメリットがもちろん人によっては色々あると思いますが、私は7年間、小規模校の校長をやらせていた

だいた中で、そんなことを感じて、また胸に秘めながら、日々仕事に当たらせていただいております。そして、それはこれからも変わらないというところでお話しをさせていただきます。

(委員)

私は、前任校が中規模校と言われる、各学年3クラス程度の学校にいました。もちろん小規模校には小規模のメリットも、デメリットもあると思います。中規模校では中規模の良さがありました。ただ、小規模校ほど一人一人に目が届いていないという事実もあるかもしれません。私も職員も皆一人一人大切にしようという思いは一緒ですが、そういう一面はあるとは思いますが。ただ、だからといってどちらがいいかということや、この統合ということに関しても、自分の立場からどちらが良いと言えることもありません。ただ、校長として学校運営という面では、やはり子供たちの安全安心、これは小規模校でも中規模校、大規模校でもこれは変わらない部分、不変なものだと思っています。

それからもう一つは、今回二谷小学校は、いずれにしろ建替えがありますが、新しい校舎での教育環境の良さというのは、必ずメリットとして生まれてくると感じています。もちろん、二谷小学校の中で建替えとなると何年間か工事があるので、その間に関しては、統合などは関係なく、どのようになるか非常に不安を感じていますが、それを乗り越えて、建替え時の工事期間のデメリットを少しでも少なくし、新校舎になって、よりよい教育環境のもとで子どもたちが学べるというのは、非常にありがたいことだと現時点で思っております。

(副部長)

私の連合会には、3つの小学校区域、二谷小学校、青木小学校、三ツ沢小学校とそれぞれ違いがあります。学校ごとに考え方や保護者の人たちも違いますから。今日部会へ来ている皆様も、子どもたちのためですよね。子どもたちが健やかに育つというのは、これが一番のことだと思います。ですから、それを大事にして、今後、二谷小学校がよりよい学校になるよう一つよろしく願います。

(部長)

まず考えなくてはいけないのは、児童、子どもたちの将来、本当に良い環境で、そして安全で和やかに健やかに過ごせる環境を作るというのが、どこの学校でも同じだと思います。それが統合になるのか、そのままの状態で行くのか、そのままの状態で行ったときに斎藤分小学校の校舎が、後何年使用できるのかはわかりませんが、そのような話は出てくるのかなと思っています。ただ、もし統合という話になれば、やはり子どもたちのことを考えて安全性、また通学にかかる時間等、ランドセルに背負われている一年生のような子どもたちが30分歩けるのか、といったことも感じています。ただ、いい環境で、新校舎というのも、それはそれでいいことだろうと思っています。私はどちらがいいかなどは言いません。ただ本当に皆さんが、是非子どもたちのことを考えて、将来を考えてどちらにしていけばいいか、100%こっちがいいなんてことは

絶対にありませんから、何とか、妥協点を見つけていかなければいけないのかなと思っています。

是非、今一度本当に皆さんには検討していただければありがたいと思っています。この部会も長くなってしまいかもしれませんが、それだけ子どもたちのことを考えると、一生懸命皆さん考えていただいているわけですから、言うところは言う、妥協をするところは妥協する、それでもって子どもたちの幸せを考えるといった形にしていければと思っています。

それでは、皆さんのご意見を伺っていると、もう一度持ち帰って、本日出された各団体からの意見をお伝えいただいて、また次回ご意見を出していただければと思います。その前にもう一度、何か質問等ございましたら、発言をお願いいたします。

(委員)

跡地の計画に責任を持ってくださるのはどこの部署ですか。

(事務局)

財政局の資産経営課が、横浜市資産活用基本方針定めていますので、そこが所管です。そこが音頭をとって、各局・区を含めて横断で進めていきます。

(委員)

各局横断とありますが、各局とはどこでしょうか。

(事務局)

その学校に入っている機能等によって異なりますが、例えば地域防災拠点でしたら総務局の危機管理室、そして区役所、総務課等。コミュニティハウスがある学校の場合は市民局など、関連する部署が入って検討します。

(委員)

後利用でこういう例がありました、地域からの要望をなるべく反映しますと説明がありましたが、教育委員会はそこに責任は持てないのではないのでしょうか。実際、教育委員会は後利用の検討に入りますか。

(事務局)

教育委員会も入ります。

(委員)

それは、施設部が入るということですか。

(事務局)

施設の暫定利用の間は教育委員会が責任を持って施設を管理しますので、次の後利用が決まるまでは元の持ち主として責任をもって、検討の場に出ています。

(委員)

暫定利用の間は、教育委員会が責任をもって管理するというのはいまわかっていますが、例えば入札を行うなど具体的に進んだ時も、きちんと責任を持ってほしい。

(事務局)

それぞれの役割がありますので、教育委員会が前面に立つことは難しいですが、基本的にはその経過については教育委員会もきちんと入っていきます。

(委員)

こちらの地域要望を具体的に伝えるのは施設部ですか。

(事務局)

地域要望についてはこれから検討となりますが、区役所にやっただけという形になります。直近の事例ですと、菅田小学校と池上小学校が統合し菅田の丘小学校という新しい統合校が開校しましたが、菅田小学校の後利用を考える検討委員会を区が立ち上げ、地域の方に入っただけで意見を伺うという場を作ったという事例がございます。その場合も教育委員会も参加しています。

(委員)

区の部署を教えてください。

(事務局)

それぞれの区によって異なりますが、菅田の丘小学校については区政推進課が担っている経緯があります。

(委員)

では今回は、区政推進課になりますね。

(事務局)

はい。

(委員)

神奈川区の区政推進課に聞きます。この場合、区政推進課は、三つある島のどこになりますか。

(関係課)

基本的には、本日出席させていただいている、まちづくり調整担当です。

(委員)

過去の事例で、後利用が決まるまでに大体どれくらいかかりますか。例えば菅田の丘

小学校の場合ではいかがでしょうか。

(関係課)

菅田の丘小学校については、現在検討中です。

(委員)

どのくらいの期間で決まっている例が多いですか。

(事務局)

それぞれの学校で異なるためなんとも言えません。検討を始めるのが閉校後か、菅田の丘小学校は閉校する少し前に検討委員会を立ち上げた形ですが、閉校後に検討を始めるという事例が多いです。その後に地域のニーズを聞き、その後に検討し2、3年程で決まった事例もあります。また、例えば市街化調整区域で、その後の建物の建設が難しい場所ですと、決まるまで時間がかかる場合もあります。そのため、その場所によって検討にかかる期間は異なると思います。

(委員)

ありがとうございます。検討委員会は、どれぐらいの頻度で開催していますか。

(事務局)

多くがこのような検討部会と同様に、半年から1年程度、回数が5回前後、菅田の丘小学校の場合は検討していただいた形になります。

(委員)

菅田の丘小学校の場合、半年の間検討委員会を行って、その結果後利用はまだ決まってないのですか。

(事務局)

基本的には、要望をまとめていただいてその後に検討するので、要望イコールすぐ決まるという形ではないということと、菅田の丘小学校の場合は池上小学校を建替えている間、菅田小の丘小学校に児童が通っているので、そういった部分で時間がかかるという面もあると思います。

(委員)

区政推進課は、地域の要望を吸い上げるところまでで止まってしまい、その後具体的にどうなるかは検討委員会が関係なくなるということですか。あとはもう役所がやるということですか。

(事務局)

基本的に、地域の要望をまとめて要望書または意見書という形で出していただいて、

その要望をもとに、行政でそれを尊重しながら後利用を検討する形です。全くバックしないというわけではなく、その検討の経過や、検討がもし進んだ場合については、また地域へご説明するという形をとると思います。

(委員)

地域の要望通りに行かなかった例はありますか。こういう要望書を出したけども実際ふたを開けたら全然違う使われ方をしているというのはあるのですか。

(事務局)

全然違うということはないとは思いますが、全部の要望が受け入れられるかどうかはあると思います。ただ、この部分は受け入れます、ここはちょっと様々な要因で難しいです、など後利用が何になるかによっても多分違うと思います。全部 100%要望通りというのではないかもしれませんが、10%だったり、90%だったりというのはあると思います。

(委員)

場所によって違うという形ですね。90%を受け入れられなかった例があるのですか。

(事務局)

細かく全部今調べているわけではないのですが、どういった要望がでて、どういった後利用になっているかというのがあります。

(委員)

次回で結構ですので、やはりそこは具体的に教えてくださらないと私たちは地域に説明が付きません。実際、過去の例として何%ぐらい。地域の要望が本当に90%通らなかったところがあるのであれば、それは資料で出してもらいたい。

(事務局)

パーセンテージですと、どう思われているかというのがありますので、どういったご要望が出ていて、どういった後利用になったのかというものはあります。

(委員)

ご自身が10~90とおっしゃったんですね。

(事務局)

失礼いたしました。それは例えで言いましたので申し訳ありません。どういった要望が出て、どういった後利用になったのかっていうのは、できる限り集めて出させていただくことは可能かと思えます。

(委員)

資料としてよろしくお願ひします。例えば、地域への要望がここのところはこれくらい叶いませんというの、決定する前にフィードバックしていただけるのですか。

(事務局)

基本的には、勝手に後利用を決めるということはなく、それぞれで、しっかり地域にはご説明した上で進めていると思います。

(委員)

区役所は、きちんとフィードバックしていますか。フィードバックしているのは教育委員会ではないでしょう。

(事務局)

区役所と財政局の資産経営課が後利用の最終的な方針を決めますので、そちらで地域に説明をしているという形になるかなと思います。

(委員)

ちゃんと調べてから教えていただけますか。かなと思いますでは不安になります。こういう経過をたどりますっていうのがはっきりわかるものを出してください。

(事務局)

わかりました。

(委員)

今回は各団体からそれぞれ意見を述べて、また次回1～2か月後だと思ひますが。皆さんは不安を取り除くことをした上で、次回を集まらないと、次回も「地域は不安と言ひています」「そうですか。不安ですか。」となってしまうので、その不安を取り除くものが何なのか、ある程度今決めておいた方がいいと思ひます。もちろん時間がかかるかもしれないので、それを次回持ち越しでもいいですが。今回の内容では、私は保護者に報告することが特になひです。今回我々が集めたものを発表しました、斎藤分学区が不安に思ひている、統合を伴う斎藤分の閉校が反対というのが主流であるというのは二谷小の保護者は皆わかっています。それを報告しても、あまり意味がないとはいわなひですけども。二谷小の保護者も、程度の差や種類の差はあっても、不安には思ひているんだと思ひます。あとは、ニュースか、私達がメールで配信をするなどでしか、彼らには情報がいかないんですよね。彼らが質問する先は教育委員会のメールアドレスしかないので。さっき言われていたように、説明会のときに説明が足りなかつたと考えると、地域説明会みたいなものを行って、説明は教育委員会からするということが良いのではないですか。ある程度、前回の説明会よりは知識や思ひもあると思ひます。当時はわかつてなかつたです。具体的にさっき言っていた通学の距離や、斎藤分の建替えも厳しい、もし、今回統合せず、そのサイズ感で校舎を建てる

ともう齋藤分は入れませんよね、どうしますかとは言っていないですよ。それを言うなら、言うしかないと思います。例えば 15 年後に統合となっても、教室数が足りないですよみたいなことを地域や、PTA に説明させるのか、ということになるんですよ。もしそれが予想されるのであれば、やっぱりその機会を作って、袋叩きになろうとも、やっぱりそういうことはやるしかないですよ。我々がやるか、教育委員会がやるかということだと思いますが、できるだけやってくれたほうがわかりやすいと思うんですよ。我々にはちょっと荷が重いです。我々は校庭が狭くなってしまうと話をすることになる。増築かっていうことになって、せっかく広く作ったグラウンドが多少削られちゃうってことを含めて。そのように説明会をすると、統合も含めてそのサイズ感の話もある程度進んでいくのかなと思います。さっきの後利用の話にしても、やっぱりある程度わかっていることを説明したほうが、地域の方の不安も抑えられるかなと思います。

(委員)

齋藤分のことを思っていてありがとうございます。説明に不足があったから、教育委員会にもう一回地域説明会を開いたらいいじゃないかというご提案ですけど、反対します。ごめんなさい齋藤分側は反対します。なぜかという、前回の説明会が非常に地域からも保護者からも評判が悪かったですね。それは、受け答えなのか、通り一遍の役人さんがというような表現がきつかったのかそれはわかりませんが。その上で、ちゃんと方向性が決まったうえで、例えば統廃合が決まりました。なので今後スケジュールはこうなりましたと決まった後に説明会するならいいです。しかし、より地域なり、保護者を不安にあおるような、15 年後はわかりませんというようなことを言ったらあなた方は袋叩きにあうだけです。しかも 15 年後のことなんて誰も分からないのだから。それを今確定のように、わざわざ説明会を開くことには反対します。双方にとって良くないです。地域なり、保護者に説明するために私たちはここにいるのですから。教育委員会に頼らずに自分たちでやりましょう。

(部会長)

はい。今までいろいろ意見が出ておりますが、どちらにしてもどちらかに決めなくちゃいけないのは確かで、それと同時に、その後、どういうふうな形になっていくのかっていうことも、やっぱりある程度見えてこない、なかなか皆さんが 100% 「うん」というわけじゃなくても、それなりに、「ああそれだったら」という部分が出てくればありがたいですね。そのあたりのことも含めて、今回皆さん意見を出してもらって、またアンケートとってもらったりしましたが、ぜひそれを踏まえて、今日出た質問に関して、何らかの回答をメール等で出していただけますでしょうか。どうですか。

(事務局)

今日様々なご質問いただいて、資料が欲しいとしていただいたものについては次回の部会の中で、しっかり示させていただきたいと考えております。

	<p>(部会長)</p> <p>そうすると、また今日と同じような流れになっていつまでたっても、今度は3回4回5回って話になってくるのでなるべく早めにメール等で返答していただいて、その後、また会を開くってということも、いいんじゃないかなと思います。じゃないとなかなか先に進みませんから、ぜひ、検討もなるべく早めに。それでその後、いつごろ第3回をやりましょうというふうな形にした方がいいと思います。ぜひそのような流れで皆さんよろしいでしょうか。</p> <p>(部会長)</p> <p>それでは、当部会の方向性として今後も検討を進めていきたいと思っておりますので、ぜひまたご協力を、本当に将来の子供たちのことを考えて頑張ってもらっていただければと思います。</p> <p>(事務局)</p> <p>今回は第3回部会ですが、本日と同様に公開で実施したいと思いますがよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(異議なし)</p> <p>(部会長)</p> <p>今日、統合の方向や、反対や賛成だという話にはなりません、最終的には決めなければいけないことだと思っています。そのため、それを長引かせてもしょうがないですし、是非皆さんのご努力、またご協力いただいて、少しでも話が前に進むように、どちらがいいともこればかりはもう皆さんも本当に迷っているのだらうと思います。子どもたちのことを考えて、皆さん是非考えていただきたいと思っています。</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特 記 事 項</p>	<p>【資 料】</p> <p>(1) 次第</p> <p>(2) 委員名簿</p> <p>(3) 席次表</p> <p>(4) 事務局に寄せられた御意見等一覧</p> <p>(5) 「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等の検討について</p> <p>【特記事項】</p> <p>今回は、令和4年7月4日(月)18時30分から公開で開催予定。 開催場所は、神奈川公会堂。</p>